



2021年2月12日

各 位

会 社 名 株式会社フリークアウト・ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 Global CEO 本 田 謙
(コード番号：6094 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 永 井 秀 輔
(TEL. 03-6721-1740)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

○開催状況

開催日時 2021年2月12日 17:00－18:00

開催方法 対面による実開催

開催場所 東京都港区六本木6－3－1 六本木ヒルズ クロスポイント

説明会資料名 2021年9月期 第1四半期決算説明資料

以上



株式会社フリークアウト・ホールディングス
(東証マザーズ：6094)

**2021年9月期 第1四半期
決算説明資料**

2021年2月12日

Section1 エグゼクティブサマリ

Section2 2021年9月期 第1四半期決算の概要

Section3 事業の進捗（広告事業）

Section4 事業の進捗（海外グループ事業）

Section1 エグゼクティブサマリ

新型コロナウイルスの影響が一部で残るものの、
売上高（76.9億円）・EBITDA（5.4億円）ともに四半期過去最高を達成。

中核事業である国内広告事業が回復・再成長。
新中計でのフォーカス領域の一つであるプレミアム媒体支援事業が順調に成長し、収益貢献開始。

海外事業では、米国Playwireが売上高 32億円（前年同期比＋54%）・EBITDA 5億円（前年同期比＋51%）と高成長を維持し、業績を牽引。

インティメート・マージャー株式の一部売却により、同社を連結子会社から持分法適用会社に。
資産の入替を推進。

Section2 2021年9月期 第1四半期決算の概要

連結売上高

76.9億円（前年Q比+2.7億円 / 直前Q比+14.8億円）

（前年Q比・直前Q比）

- ・過去最高の売上を達成
- ・（国内）プレミアム媒体支援事業が成長、主力のDSP（高粗利率）も回復・再成長
- ・（海外）オーガニックの成長に加え、広告需要期（10月～12月）のため大きく収益貢献

連結EBITDA

5.4億円（前年Q比+1.8億円 / 直前Q比+4.6億円）

（前年Q比・直前Q比）

- ・前年Qと比較して、投資事業に依拠することなく事業の大幅改善・成長により、過去最高のEBITDAを達成
- ・シンガポール事業撤退により、IRIS持分法投資利益が大幅マイナス(▲1.0億円、すでに撤退済のため一過性)

連結経常利益

3.4億円（前年Q比+0.1億円 / 直前Q比+4.9億円）

（前年Q比・直前Q比）

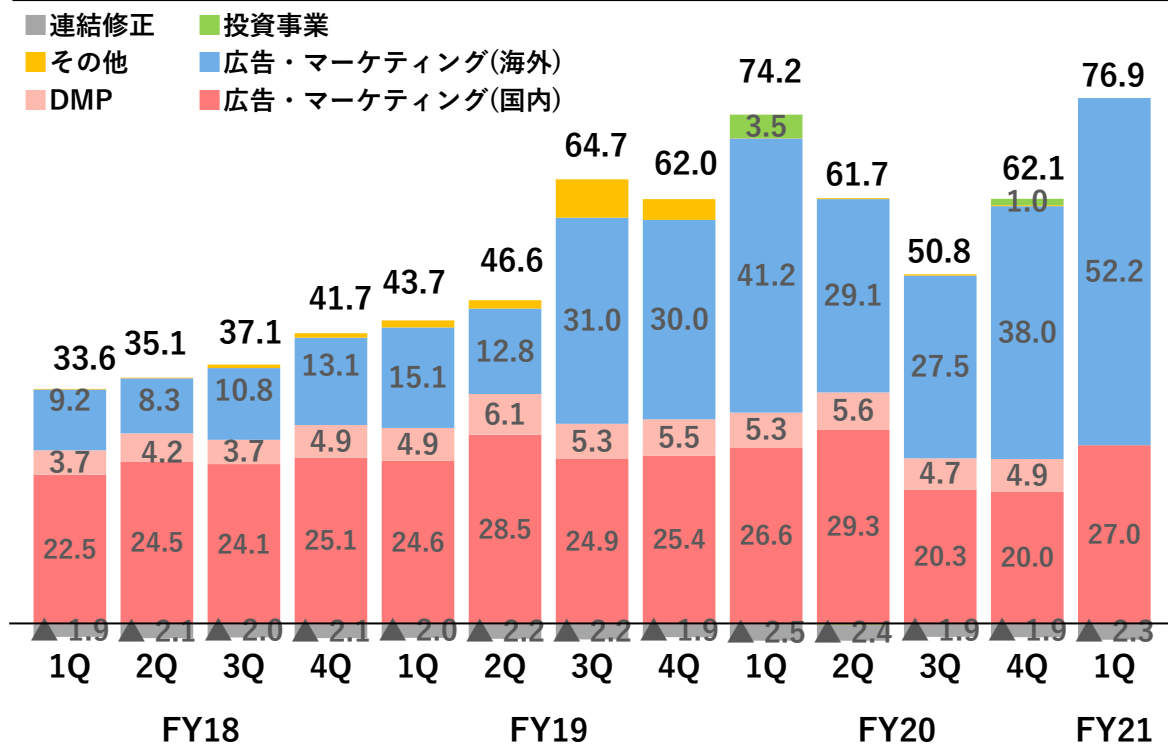
- ・EBITDAと同様の要因に加え、為替差損(0.9億円)等が発生

- ・ 営業利益：**5.4億円**
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益：**6.2億円**

- 過去最高の売上、EBITDAを達成
- (国内) 中核子会社であるフリークアウトが大きく回復・再成長
- (海外) 年末の広告需要期の影響もあり、過去最高の売上、EBITDAを大幅更新

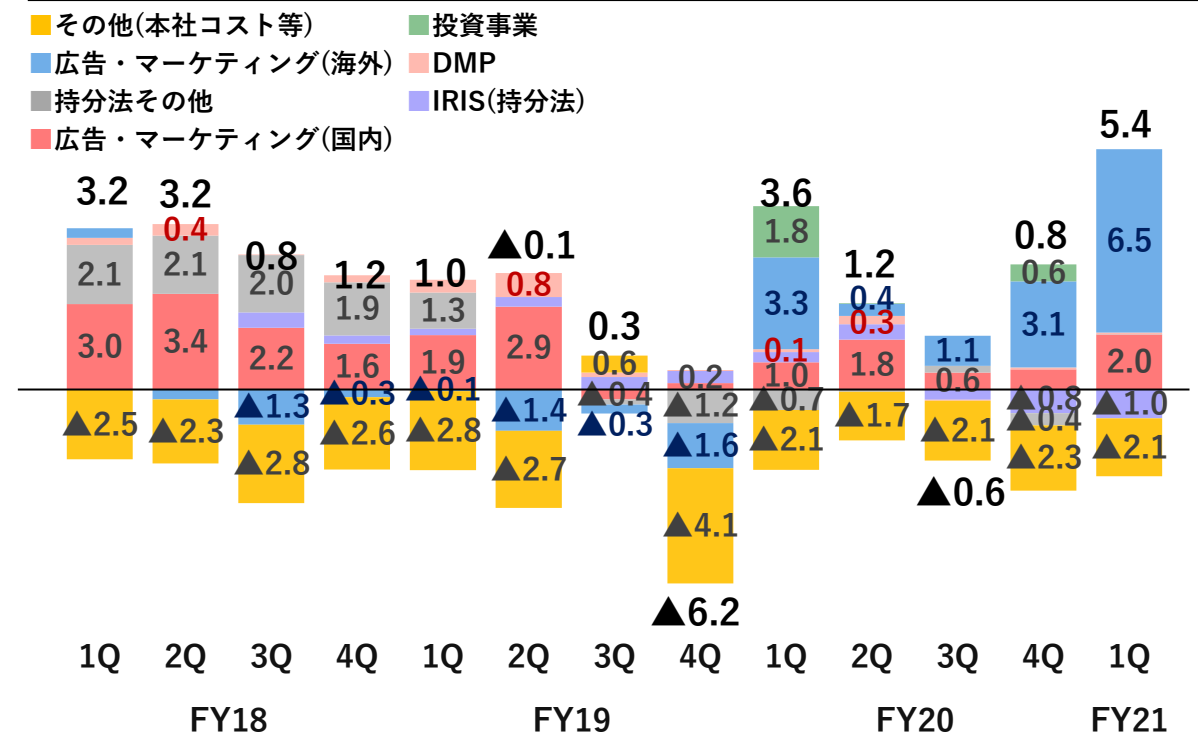
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円



- 予算と比較して、第1四半期は極めて順調に進捗
- 一方、第2四半期以降については、依然として新型コロナウイルスの影響や為替の動向など不透明な要素も少なくないことを鑑み、現時点では通期業績予想は据え置く

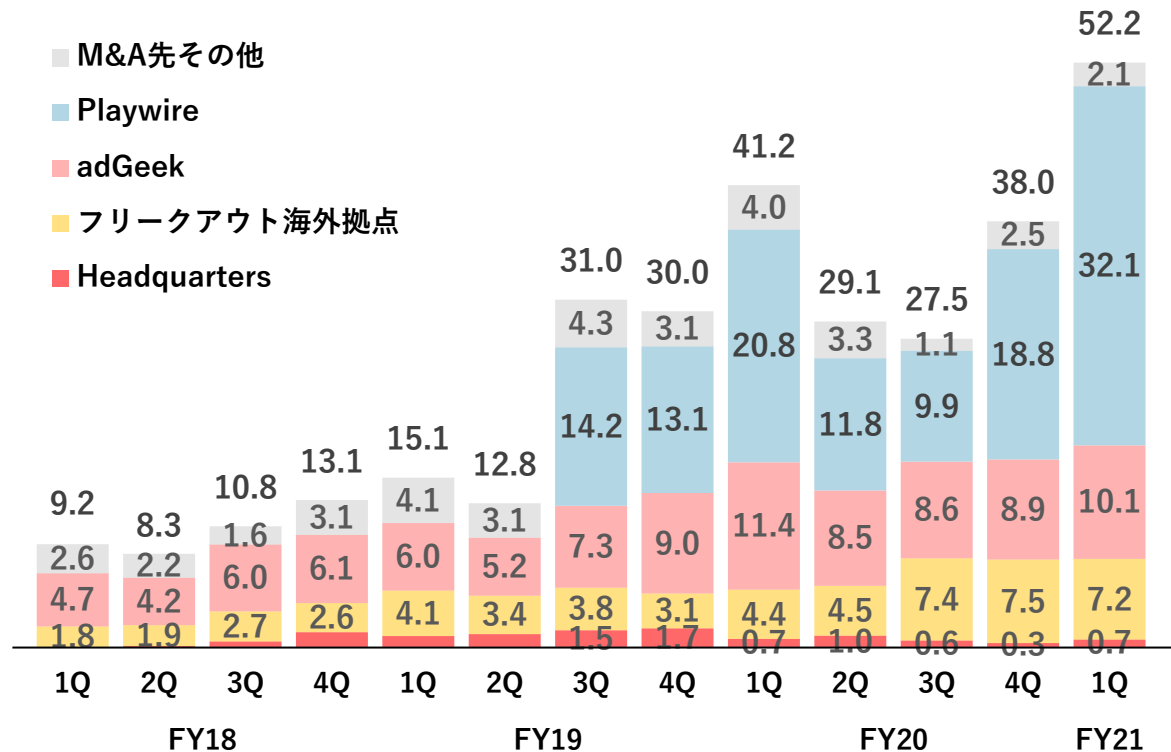
単位:億円

	当初予算	1Q 実績	差異	(参考) 通期 当初予算	進捗率
売上高	70.0	76.9	+6.9	270.0	28%
EBITDA	2.5	5.4	+2.9	6.0	90%
営業利益	2.0	5.4	+3.4	2.0	270%
経常利益	1.4	3.4	+2.0	1.0	340%
最終利益	非開示	6.2	-	非開示	-

- ・ 米国 Playwire : 売上・EBITDAともに大幅成長
- ・ APAC : 新型コロナウイルスの影響は一部残るも、全体としてEBITDAに貢献

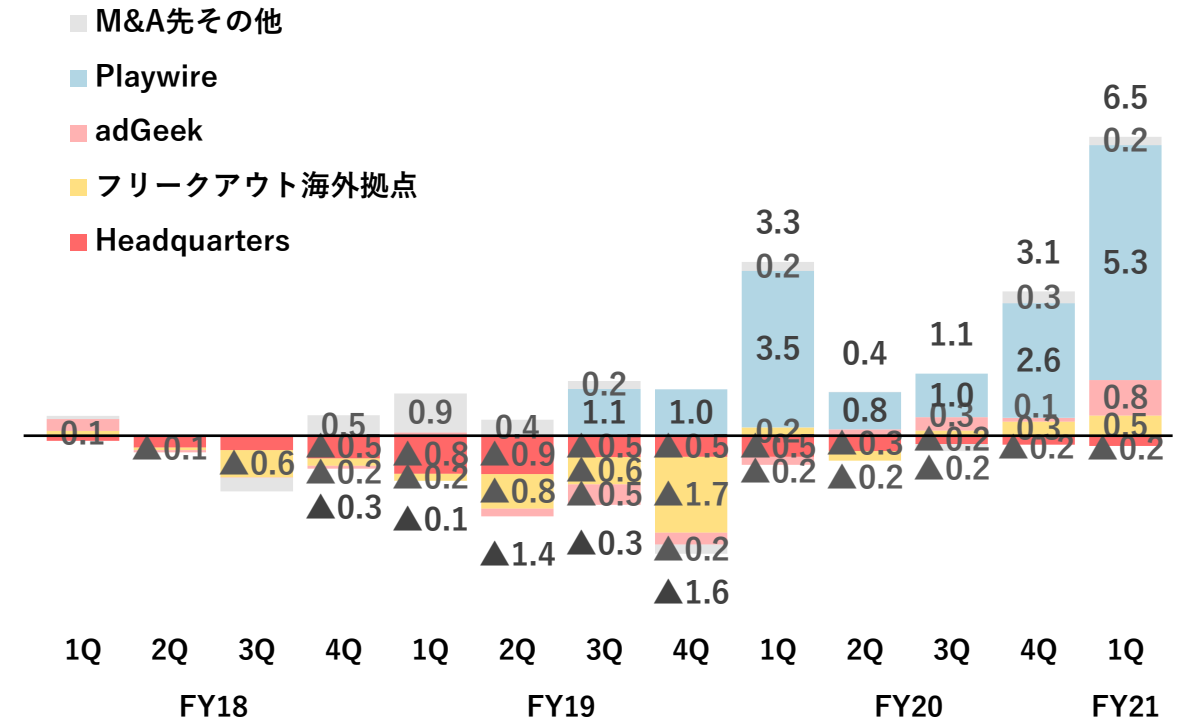
売上

単位:億円



EBITDA

単位:億円

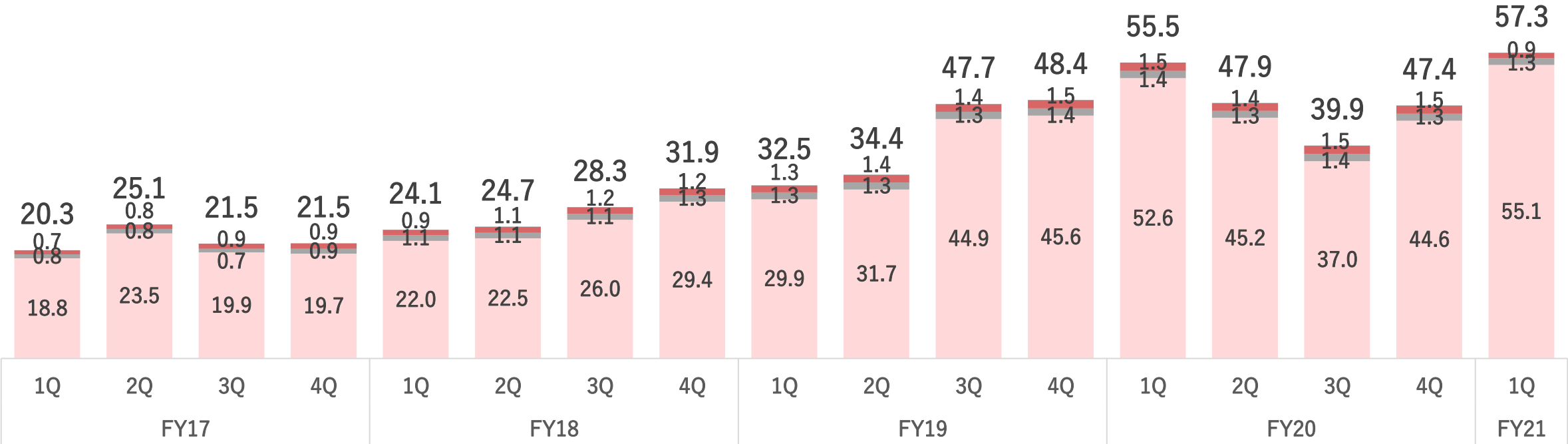
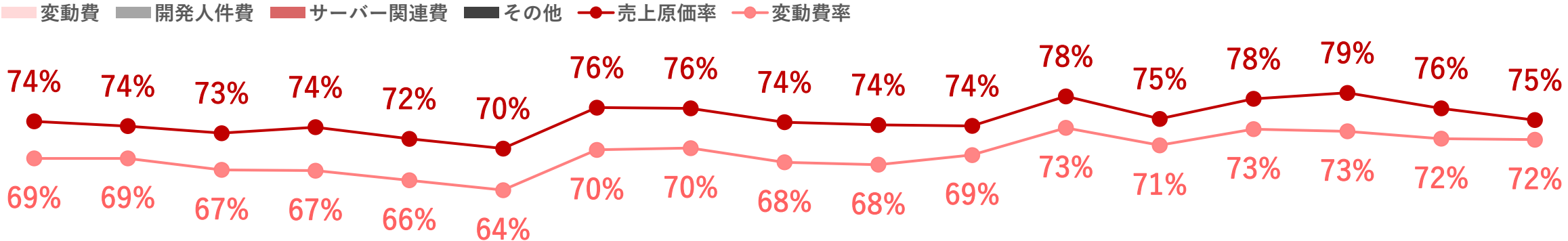


単位:百万円

	FY20				FY21
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	302	▲ 33	▲ 157	99	545
持分法投資利益	▲ 36	51	▲ 14	▲ 141	▲ 96
のれん償却費	42	41	43	39	33
減価償却費	56	65	65	88	63
EBITDA	364	125	▲ 62	85	544
のれん償却費	▲ 42	▲ 41	▲ 43	▲ 39	▲ 33
減価償却費	▲ 56	▲ 65	▲ 65	▲ 88	▲ 63
その他(為替差損益等)	62	▲ 80	▲ 171	▲ 104	▲ 110
経常利益	329	▲ 62	▲ 341	▲ 146	338

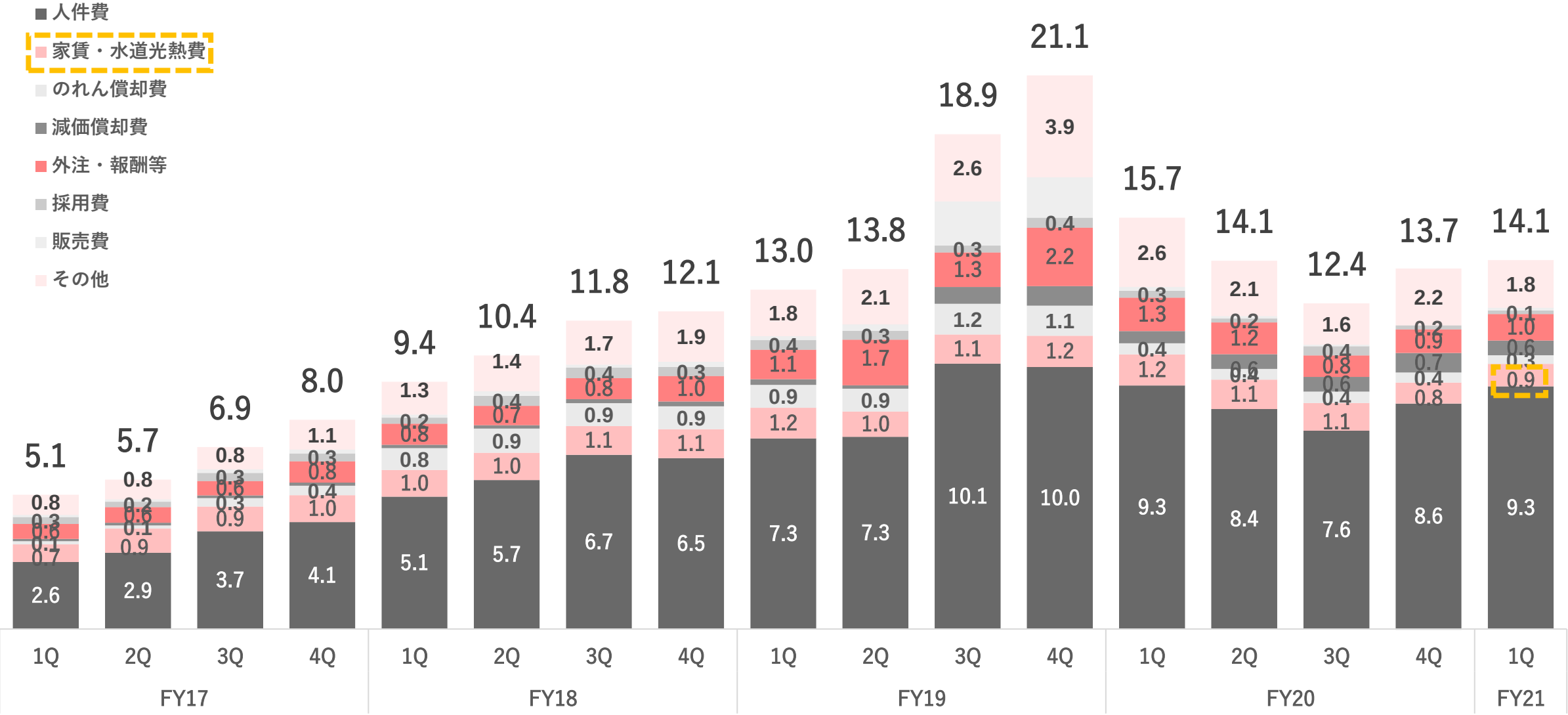
連結売上原価の推移

単位:億円



連結販売管理費の推移

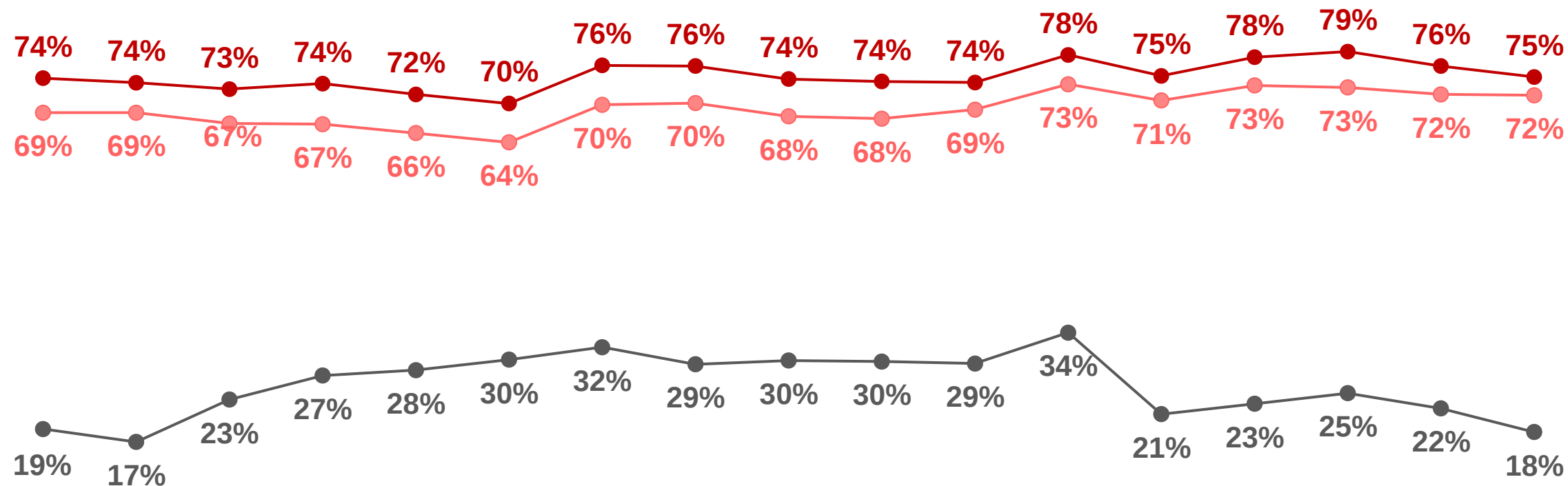
単位:億円



※オフィスフロアの一部返還により、2Q以降コストダウンが発生

【参考情報】 連結原価率・連結販管費率の推移

● 売上原価率 ● 変動比率 ● 販管費率



1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
FY17				FY18				FY19				FY20				FY21

単位:人

	FY20	FY20	FY20	FY20	FY21
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
国内広告事業	169	167	169	167	155
DMP	43	39	39	42	—
フリークアウト海外拠点	90	91	92	93	94
海外グループ会社	321	248	229	226	203
その他	31	31	46	42	44
グループ合計	654	576	575	570	496

※インティメート・マージャー および Thrive(インドネシア) の連結除外により61名減少。

Section3 事業の進捗（広告事業）

前中計：FY18 - 20

国内広告事業



海外広告事業



グローバルアプリ事業



デジタルサイネージ事業

IRIS

今中計：FY21 -

国内広告事業



広告事業
(時吉管掌)

フリークアウト海外拠点



インド/台湾/フィリピン/マレーシア/
タイ/ベトナム/韓国/中国

デジタルサイネージ



海外グループ事業
(竹内管掌)

海外グループ会社

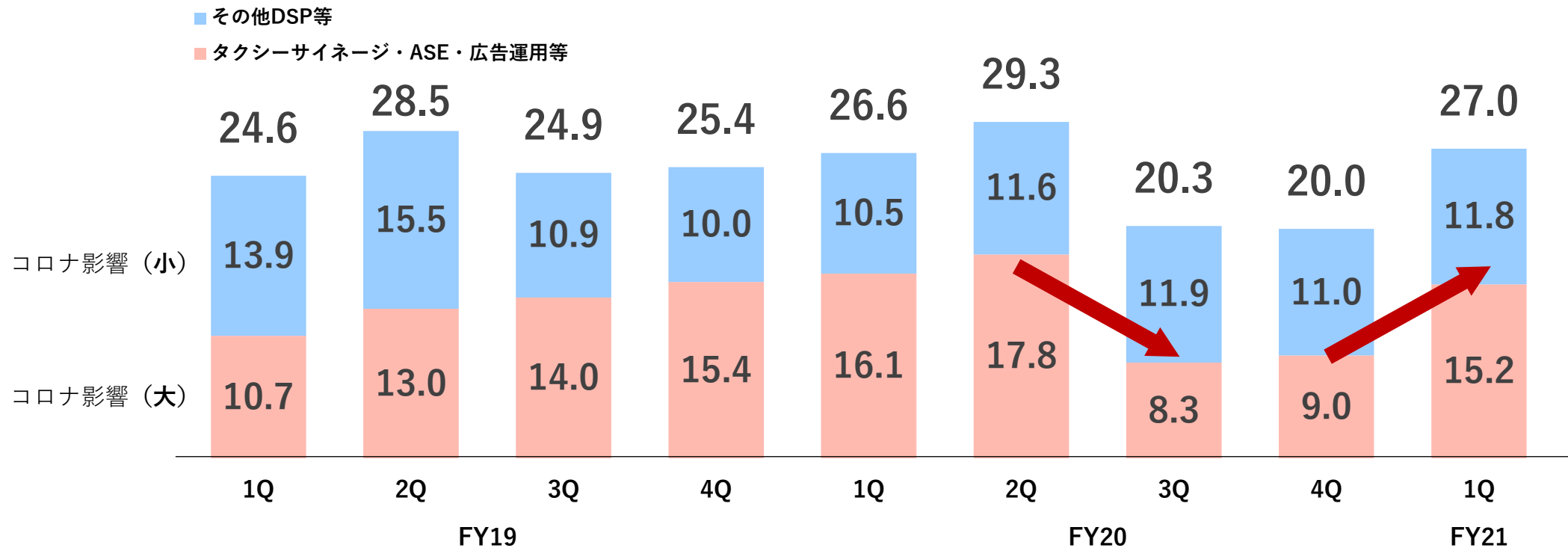


『単独での収益化』から『グループシナジー創出による収益最大化』へ

- ・ 新型コロナウイルスの影響から脱し、回復・再成長フェーズへ。
- ・ 特に影響を強く受け、大きく落ち込んだタクシーサイネージ および 位置情報マーケティングプラットフォーム（ASE）はコロナ以前の水準に大幅回復。

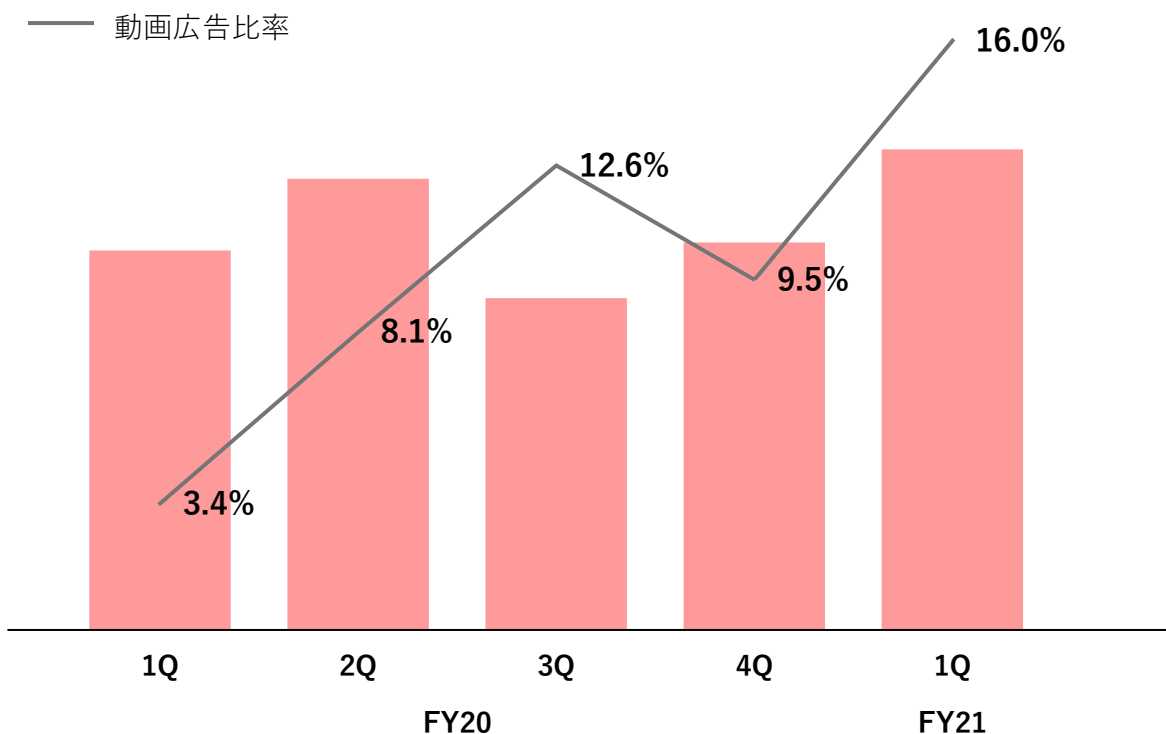
広告・マーケティング（国内） 売上

単位:億円

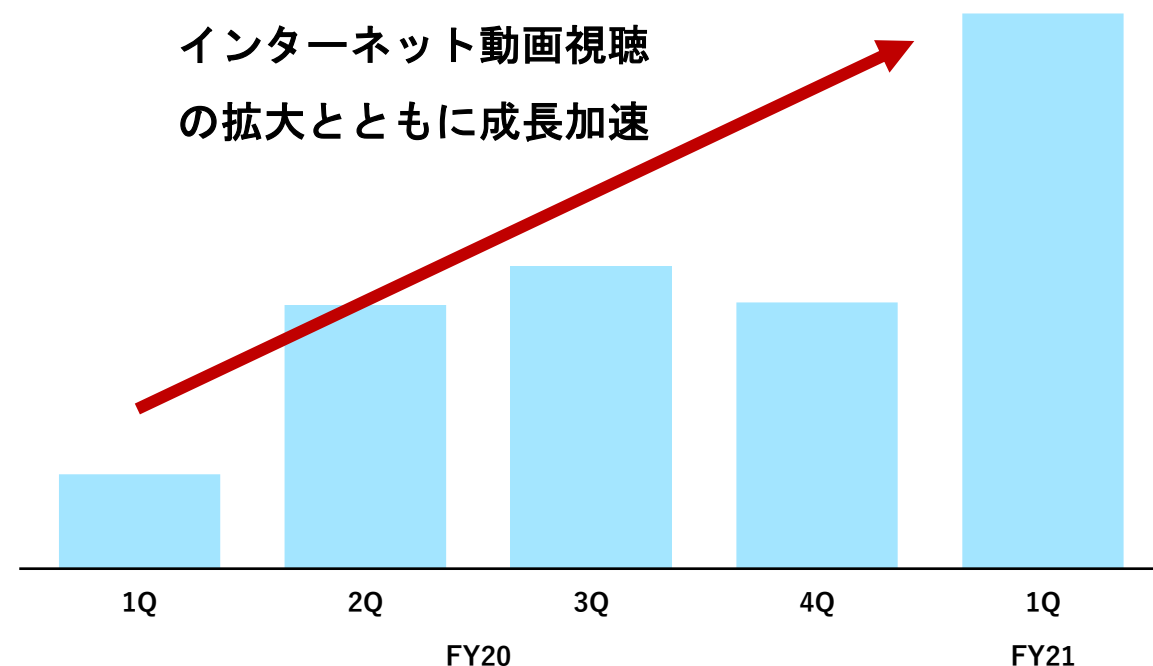


- DSP売上が好調に推移し、前年同四半期比127%まで伸長。収益拡大に貢献。
- 中でもDSP売上における動画広告比率は四半期ベースで16%まで成長。引続き成長加速中。

DSP売上



DSP動画広告売上

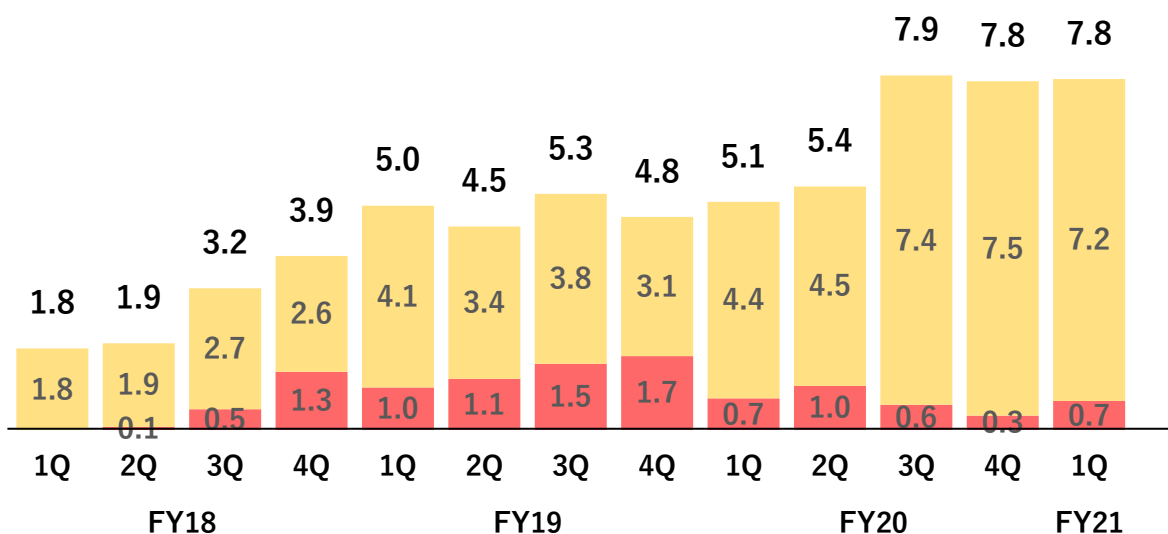


- ・ シンガポール本社コストも含め、海外拠点全体で黒字を維持
- ・ 中国は引き続き好調に推移
- ・ 加えて、インドネシア・台湾・フィリピン・マレーシア・ベトナムの各拠点で黒字を達成

売上

単位:億円

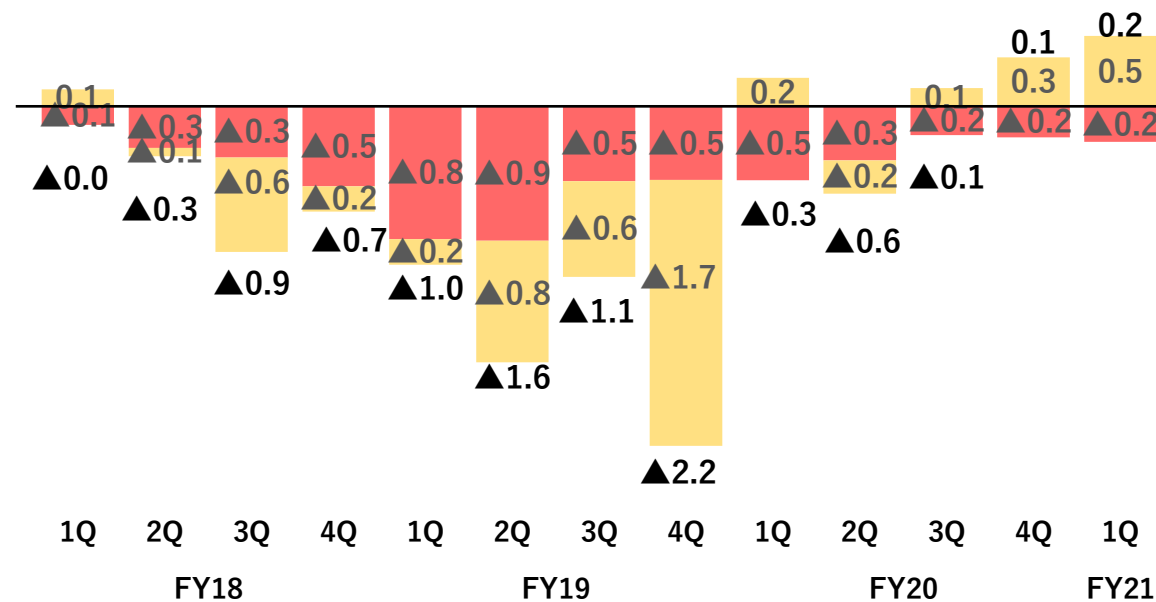
■ フリークアウト海外拠点
■ Headquarters



EBITDA

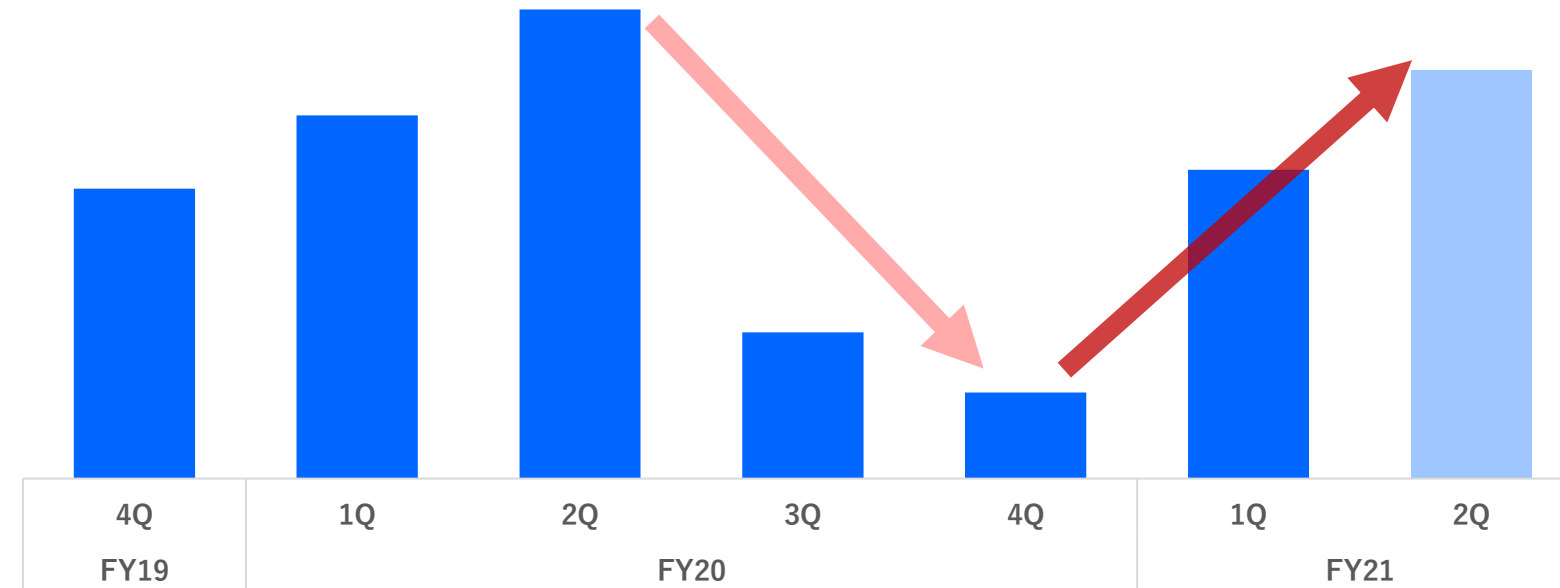
単位:億円

■ フリークアウト海外拠点
■ Headquarters



- 10月より徐々に回復し、11月以降は前年同期比で同程度となり黒字化
- Premium Taxi Visionの合流により、10月より5万台規模での広告商品を販売開始。日本国内最大規模のタクシーサイネージメディアへと成長。
- 緊急事態宣言の影響は若干あるものの、引き続き成長の見込み

IRIS売上推移

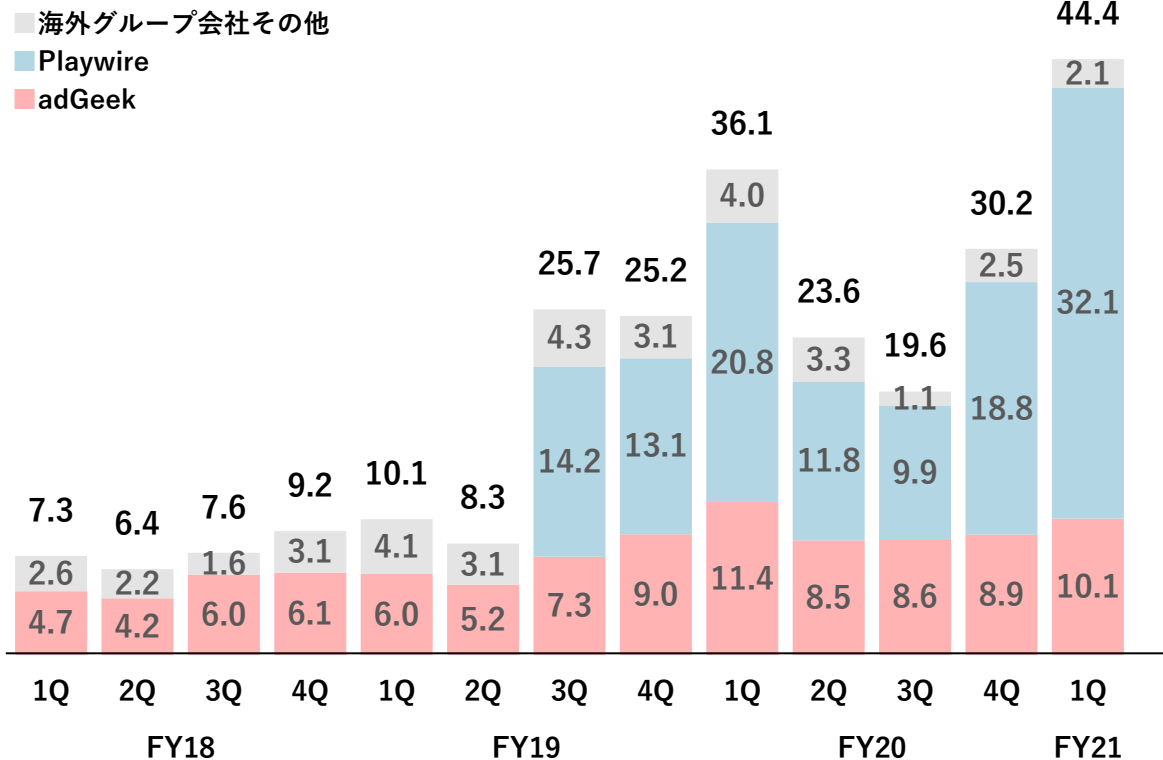


Section4 事業の進捗（海外グループ事業）

- ・ 米国 Playwire：新規取引先獲得の順調な進捗に加え、コスト抑制効果、既存取引回復傾向により大幅な増収・増益
- ・ APAC：新型コロナウイルスの影響は一部残るも、全体としてEBITDAに貢献

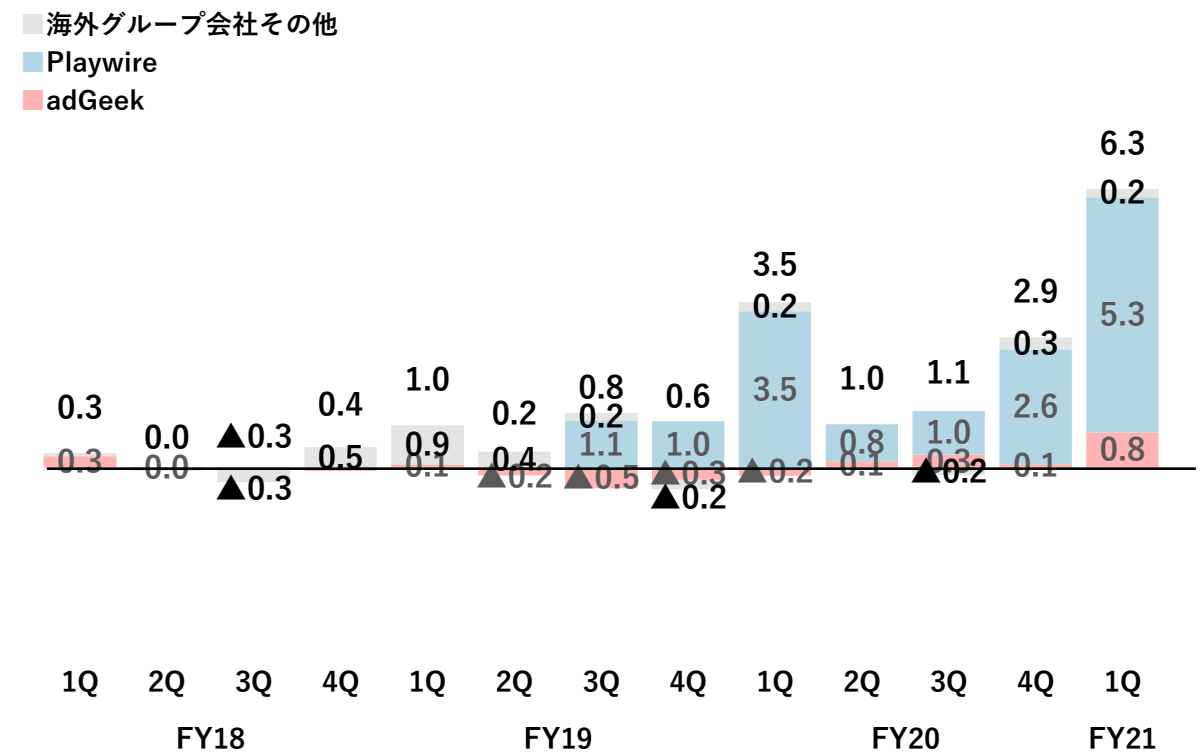
売上

単位:億円



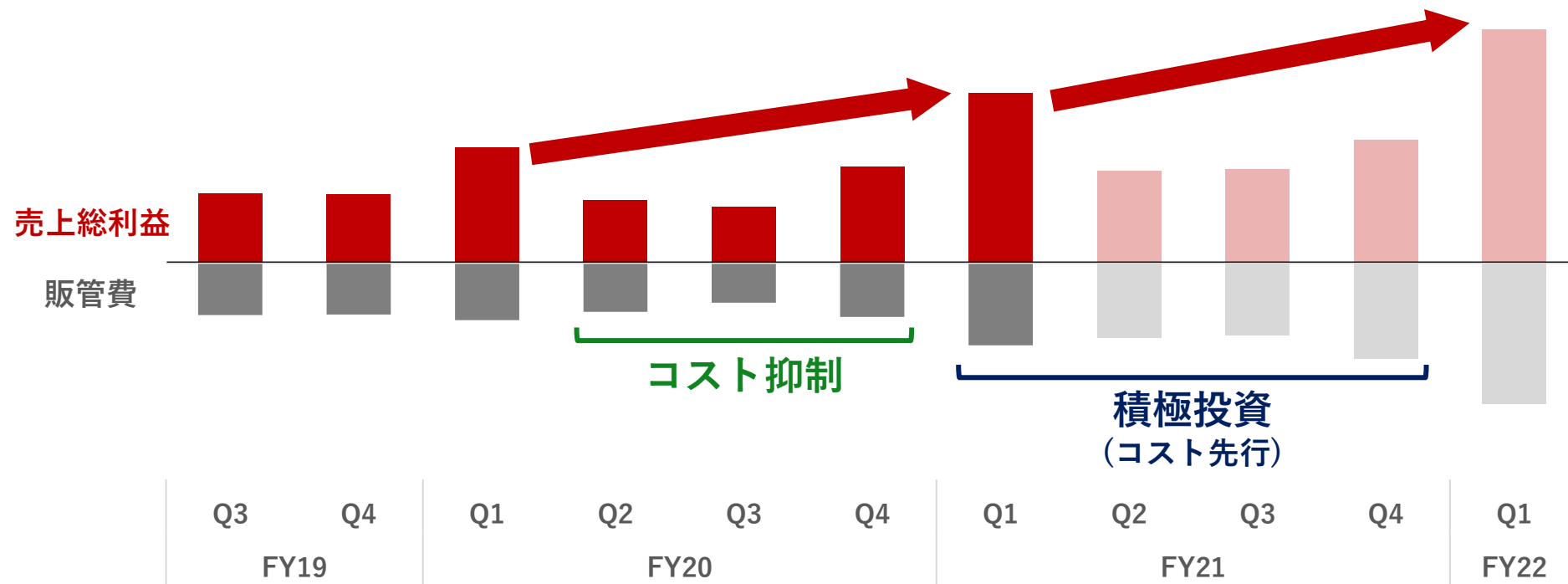
EBITDA

単位:億円



- FY20: コロナによる市場環境の変化に素早く対応（コスト抑制）し、利益を確保。
- FY21: 成長加速のための積極投資を実行。FY23中計達成に向けより一層の拡大・成長を目指す。

売上総利益・販管費



Appendix 1

会社概要

会 社 名	株式会社フリークアウト・ホールディングス		
設 立	2010年10月1日		
資 本 金	26億5,379万円		
所 在 地	〒106-0032 東京都港区六本木6-3-1 六本木ヒルズ クロスポイント		
役 員 構 成	代表取締役社長 Global CEO	本田 謙	取締役（常勤監査等委員） 柳澤 文夫
	取締役 CFO	永井 秀輔	取締役（監査等委員） 高田 祐史
	取締役 広告事業管掌	時吉 啓司	取締役（監査等委員） 松橋 雅之
	取締役 海外グループ管掌	竹内 誠	
事 業 内 容	グループ会社株式保有によるグループ経営戦略の策定・管理		
発 行 済 株 数	16,666,700株		
主 要 株 主 ※	本田 謙		28.78%
	伊藤忠商事株式会社		17.17%
	ドイツ証券株式会社		6.70%
	YJ1号投資事業組合 業務執行組合員 YJキャピタル株式会社		3.45%
	THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051		2.84%

※2020年9月末時点の主要株主の状況を記載

Appendix 2

業績補足資料

（単位:百万円）

	FY21 1Q	FY20 1Q	前年Q比	FY20 4Q	直前Q比
変動費	5,510 71.7%	5,259 70.9%	4.8%	4,462 71.8%	23.5%
開発人件費	129 1.7%	139 1.9%	▲7.5%	132 2.1%	▲2.2%
サーバー関連費	94 1.2%	150 2.0%	▲37.1%	147 2.4%	▲35.9%
その他	0 0.0%	1 0.0%	▲64.1%	0 0.0%	509.9%
売上原価計	5,733 74.6%	5,549 74.8%	3.3%	4,740 76.3%	20.9%

※金額の下に記載している%は対売上高比

連結販管費（四半期会計期間）

（単位:百万円）

	FY21 1Q	FY20 1Q	前年Q比	FY20 4Q	直前Q比
人件費	927 12.1%	930 12.5%	▲0.4%	861 13.9%	7.6%
家賃・水道光熱費	86 1.1%	119 1.6%	▲27.7%	80 1.3%	7.5%
のれん償却費	33 0.4%	42 0.6%	▲21.4%	39 0.6%	▲14.5%
減価償却費	56 0.7%	47 0.6%	20.5%	75 1.2%	▲24.6%
外注・報酬等	101 1.3%	127 1.7%	▲20.9%	90 1.4%	12.2%
採用費	14 0.2%	27 0.4%	▲47.4%	16 0.3%	▲8.3%
販売費	10 0.1%	14 0.2%	▲28.8%	-5 -0.1%	▲293.8%
その他	182 2.4%	265 3.6%	▲31.3%	218 3.5%	▲16.3%
販管費計	1,409 18.3%	1,572 21.2%	▲10.3%	1,372 22.1%	2.7%

※金額の下に記載している%は対売上高比

本資料の内容ならびに説明についてご質問等がございましたら、
下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

経営企画室

電話番号(代表番号)：03-6721-1740

お問い合わせフォーム：<https://www.fout.co.jp/contact/company/>



Give People Work That Requires A Person.